



その「人らしさ」を大切に、 「作業療法らしさ」を分かち合いましょう!

一般社団法人 大阪府作業療法士会
会長 藤原 太郎 (株式会社 和ごころ)



皆さま、作業療法を楽しんでいますか。どちらで活動されていますか?

作業療法士の職域は医療・介護・福祉の現場にとどまらず、行政・教育・司法・企業など益々拡大しています。言い換えれば、私たちが目指す「一人一人がその人らしく活動できる」ための援助は、どの分野にいてもできるのだらうと考えます。

「2025年問題」は10年以上前から危惧されていた言葉です。現在どのような問題と直面しておられますか?問題を実感されているのでしょうか?

超高齢社会に突入する中、高齢者の健康寿命延伸を見据え、病気やケガ、様々な喪失体験からフレイル状態にある方が「あきらめず、その人らしい生活を取り戻す」ため、自立支援のケアマネジメントが求められています。私たちの多くが在籍する病院・施設の医療現場においても同じく、退院後の自宅や地域生活(生活期)をイメージし、その方や周囲の方々が「その人らしく」生活していけるために尽力されていることと思います。

就労現場では、その人らしく「はたらく」ことができるよう、人だけでなく企業や行政など周りの環境へのアセスメント、そしてマネジメントが大切となります。

昨今、学校作業療法という言葉が飛び交うようになってきています。ここでも障害の有無に関わらず、「その子がその子らしく」学校生活を送ることができるよう、また子どもも家族も地域で安心して生活を送るためのサポートが求められています。

4月から大阪・関西万博が開催され、当士会でも救護サポーター活動に130名の皆さまにご協力いただいております。世界各国から多くの人が集まり、大阪そして日本が誇る一大イベントの開催に私たちが携われることで、今後見える景色もより広がっていくことでしょう。

最後に、今年度府士会は、「作業療法士としての作業療法らしさ」を、より皆さまと分かち合えるよう努めます。まだまだ私たち自身が気づけていない作業療法の可能性や魅力を共有・発信し、元気で価値ある作業療法を多くの方々に届けていきましょう!

